

令和3年度

食品ロス削減 推進大賞

募集期間 2021/6/4(金)~2021/9/3(金)

暮らしの中で実践できる食品ロス削減の取組を始めたきっかけはなんでしたか？
皆さんがやってみようと思う、人に勧めてみようと思う、
そんな「食品ロス削減」の活動を募集しています。
地方公共団体、企業、団体、学生など様々な方からの応募をお待ちしています。

About

食品ロス削減推進大賞とは？

食品ロス削減の推進に資する取組を実施している者であって、消費者等に対し広く普及し、波及効果が期待できる活動を行った者に対して表彰を行うことにより、食品ロス削減の取組を広く国民運動として展開していくことを目的として、表彰を行います。

応募いただいた内容は、「食品ロス削減推進大賞選定会議」において、選考基準に基づき、審査を行います。

Entry

応募方法

専用の推薦調書様式をダウンロードし、必要事項を記入の上、添付書類を添えて、以下消費者庁特設サイト「めざせ！食品ロス・ゼロ」内の食品ロス削減推進大賞応募フォームからお申込みください。

◆メールアドレス登録後から24時間以内にアクセスし、お申込みいただく必要がございます。推薦調書と必要書類をご用意の上、お進みください。

https://www.no-foodloss.caa.go.jp/promotion_award.html



誰でも
応募OK!

主催 消費者庁

後援 農林水産省、環境省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省



令和2年度の受賞者

内閣府特命担当大臣賞

株式会社ハローズ

従来の、事業者等から寄付された食品をフードバンクに集めて、福祉団体等の支援団体へ配布する仕組みを変更し、フードバンクが支援する団体が直接近隣の店舗に引取りに行く「ハローズモデル」を開発。これにより、比較的早く傷んでしまう野菜や豆腐が提供可能となった。

岡山県内では、(株)ハローズの呼びかけにより、80%近くのスーパーがハローズモデルを活用。さらに、スーパー以外(一部のドラッグストア・食品問屋等)でも、提供が開始されている。



消費者庁長官賞

井出留美

食品メーカー社員とフードバンク広報の経験を生かし、食品ロス問題ジャーナリストとして、2008年から13年間、国内外で400回以上の講演、500回以上のメディア出演を通じ、食品ロス問題の重要さと具体的な削減方法について啓発活動を行うと共に、書籍の出版を通じて食品ロスの現状や消費者ができることを発信。

最近では、恵方巻の廃棄量が多いことに着目し、2019年からコンビニ・スーパーなどでの恵方巻の売れ残り状況を独自に調査してインターネットニュースで発信するなど、様々な角度から発信を続けている。



撮影：堀隆弘

消費者庁長官賞

株式会社クラダシ

「もったいないを価値へ」をミッションにし、社会貢献型フードシェアリングプラットフォーム「KURADASHI」を開発・運営。

KURADASHIでは社会貢献と食品ロス削減を同時に実現。賞味期限の迫った商品や季節商品など、様々な理由で販売の機会を失った商品を買取り、オンラインで消費者のニーズとマッチングすることで食品ロスを削減。売上金の一部は社会貢献団体へ寄付される。これまでに10,476トンの食品ロス削減に貢献。



消費者庁長官賞

チーム「それいいね!!」

長崎県立壱岐高等学校の生徒を中心としたチーム。壱岐市内のスーパーマーケットを訪問した際、期限の迫った食品の廃棄など、店舗での食品ロス問題に着目。シールを貼った食品を購入するとスーパーのポイントが付与される『食べてほしーる。』を考案。

2週間、店内でポスター展示や放送でPRし、食べられるのに廃棄される可能性のある期限間近の食品に『食べてほしーる。』を貼り検証したところ、シールを貼った食品が1日当たり150~200点ほど売れ、食品ロス削減に貢献。



表彰

内閣府特命担当大臣(消費者及び食品安全)賞

→5点以内

消費者庁長官賞

→5点以内

食品ロス削減推進大賞審査委員会委員長賞

→5点程度

令和3年度食品ロス削減推進大賞審査委員会委員

蟹江 憲史	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 教授
小林 富雄	愛知工業大学経営学部 教授 食品ロス削減推進会議 委員 ドギーバッグ普及委員会 委員長
長沢 美津子	朝日新聞 編集委員 食生活ジャーナリストの会 会員
馬場 裕之	お笑いトリオ ロバート
増田 悦子	公益社団法人全国消費生活相談員協会 理事長
村井 正親	消費者庁政策立案総括審議官